

JP-MIRAI フォーラム 2025.7.4

外国人のセーフティネットの現状・課題 ～浜松からの報告～

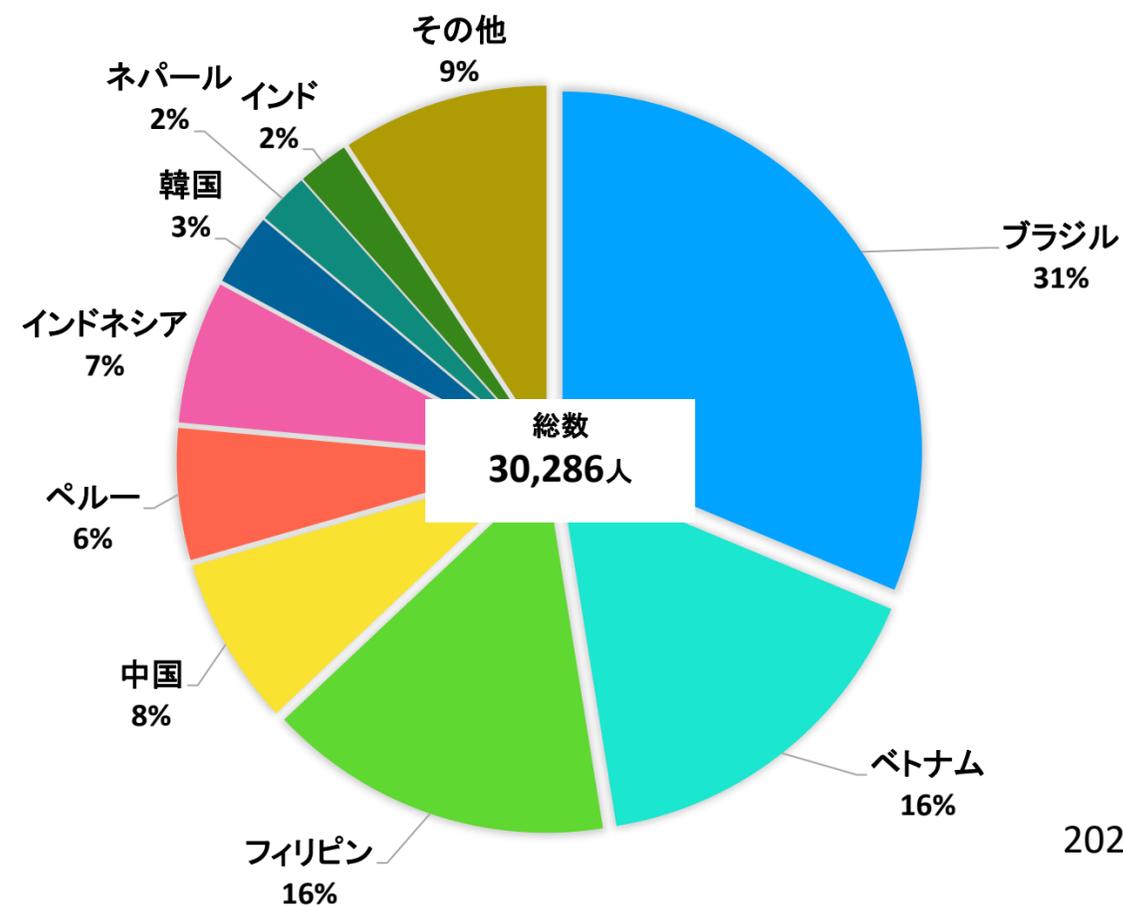
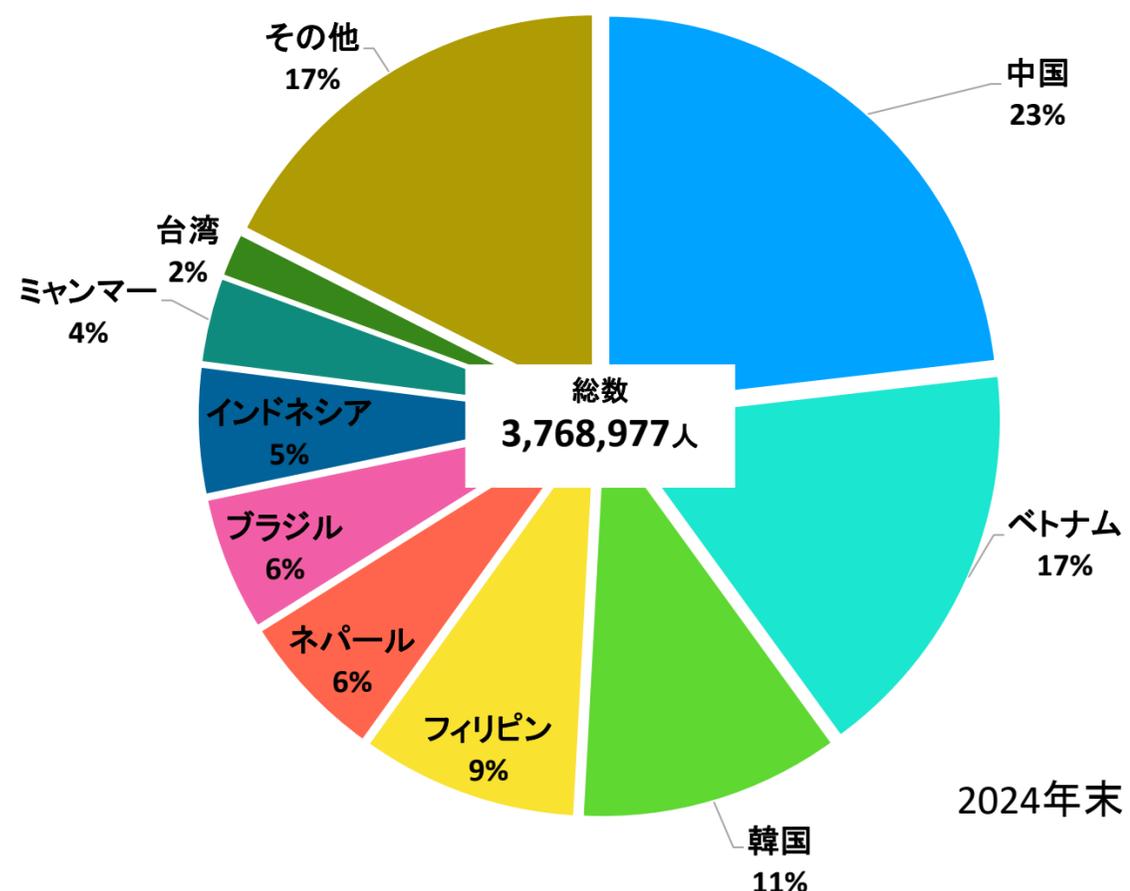


公益財団法人浜松国際交流協会 (HICE)
松岡 真理恵



浜松市の外国人住民の特徴(国籍別)

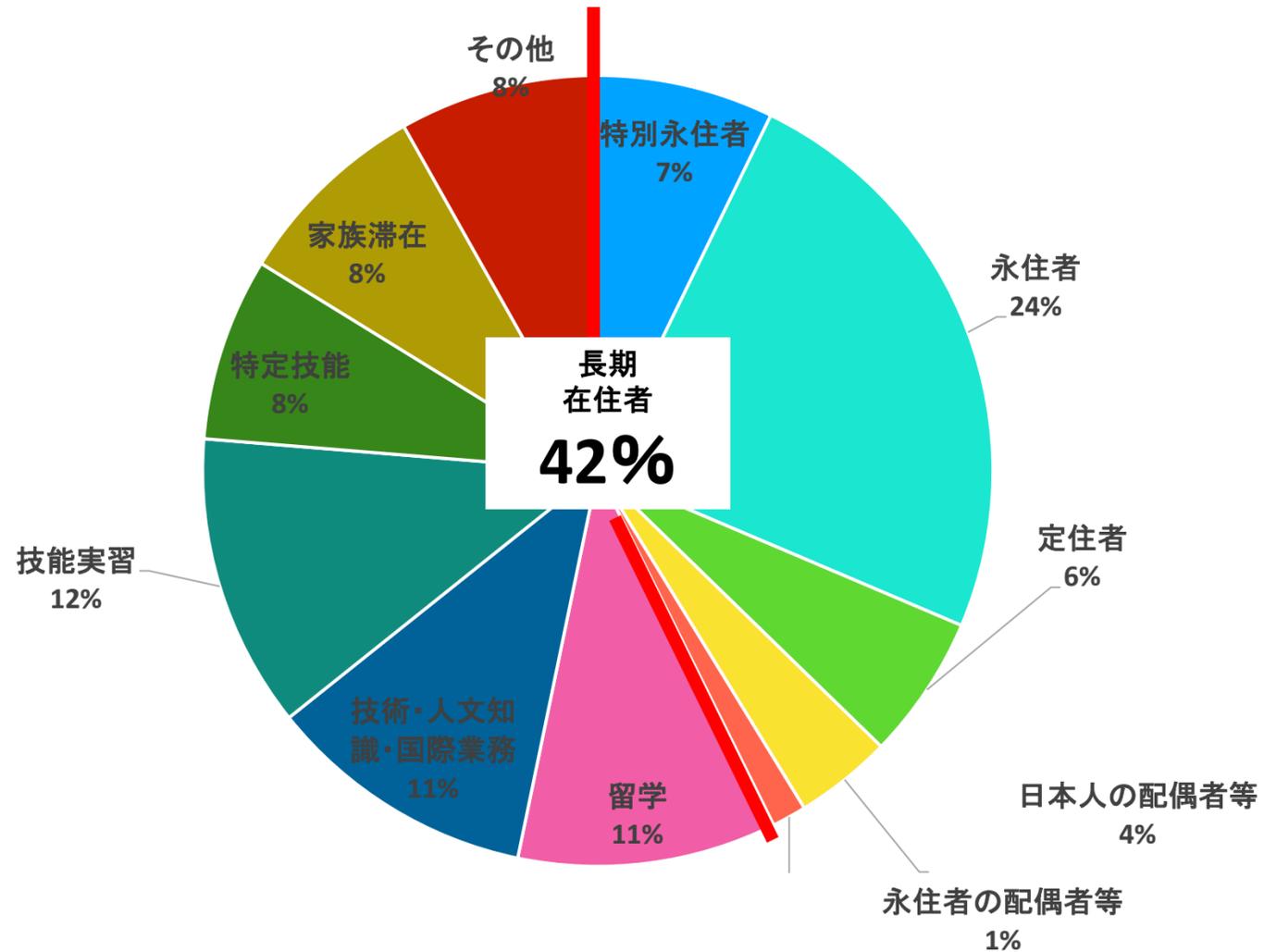
全国と比較すると、浜松市はブラジル人住民数が多いのが特徴。
 ここ数年、フィリピン人、ベトナム人、インドネシア人なども増加。特にベトナムは5年で2倍。



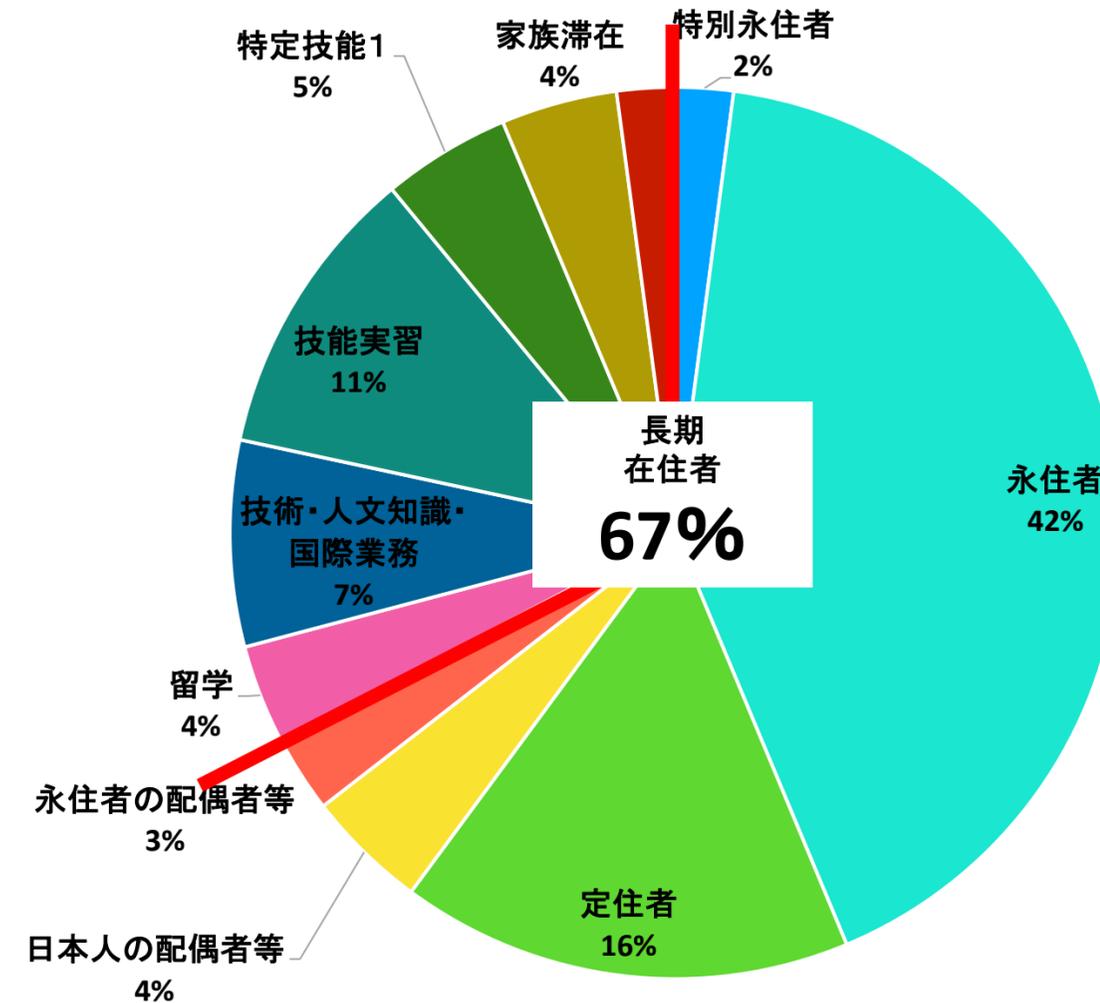
浜松市の外国人住民の特徴(在留資格別)

全国
2024年12月末

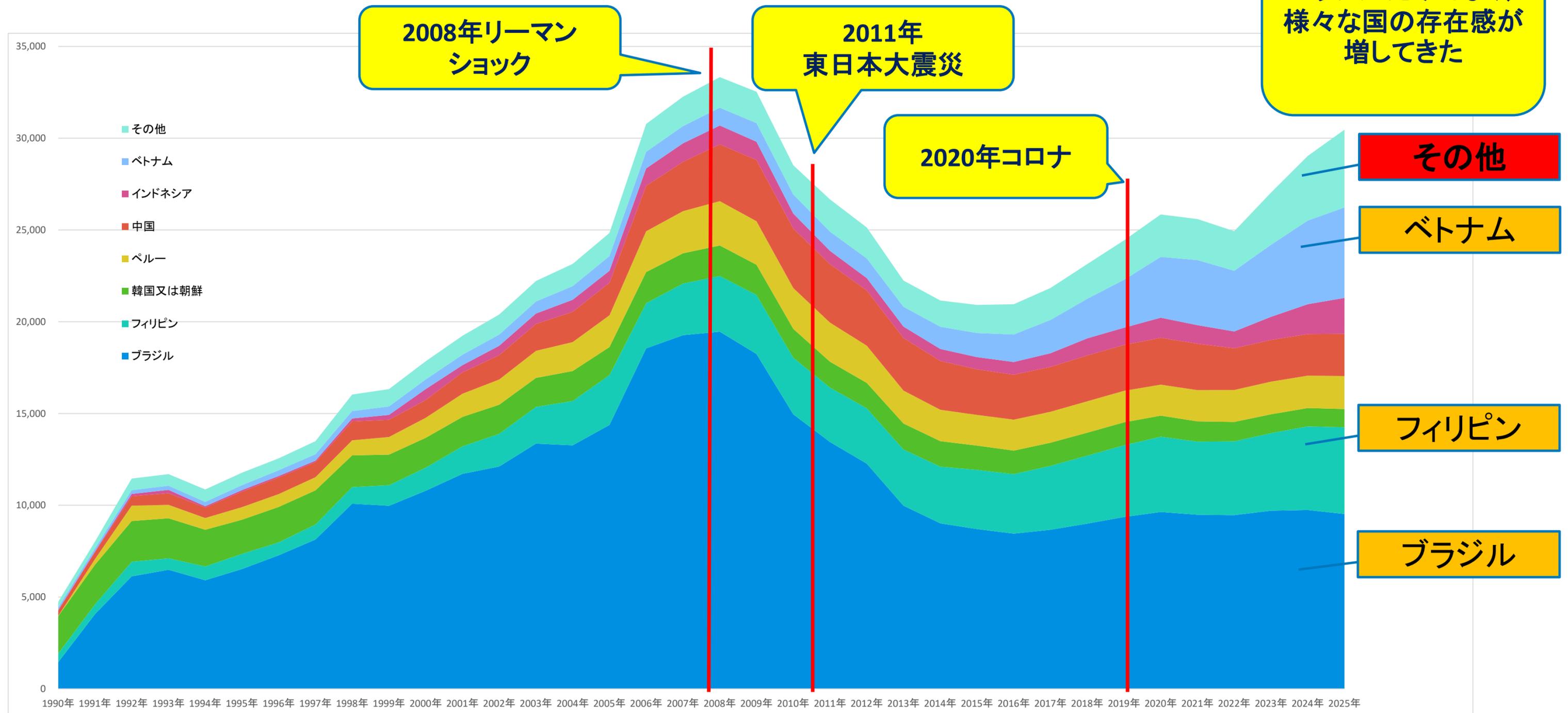
浜松市
2025年4月1日



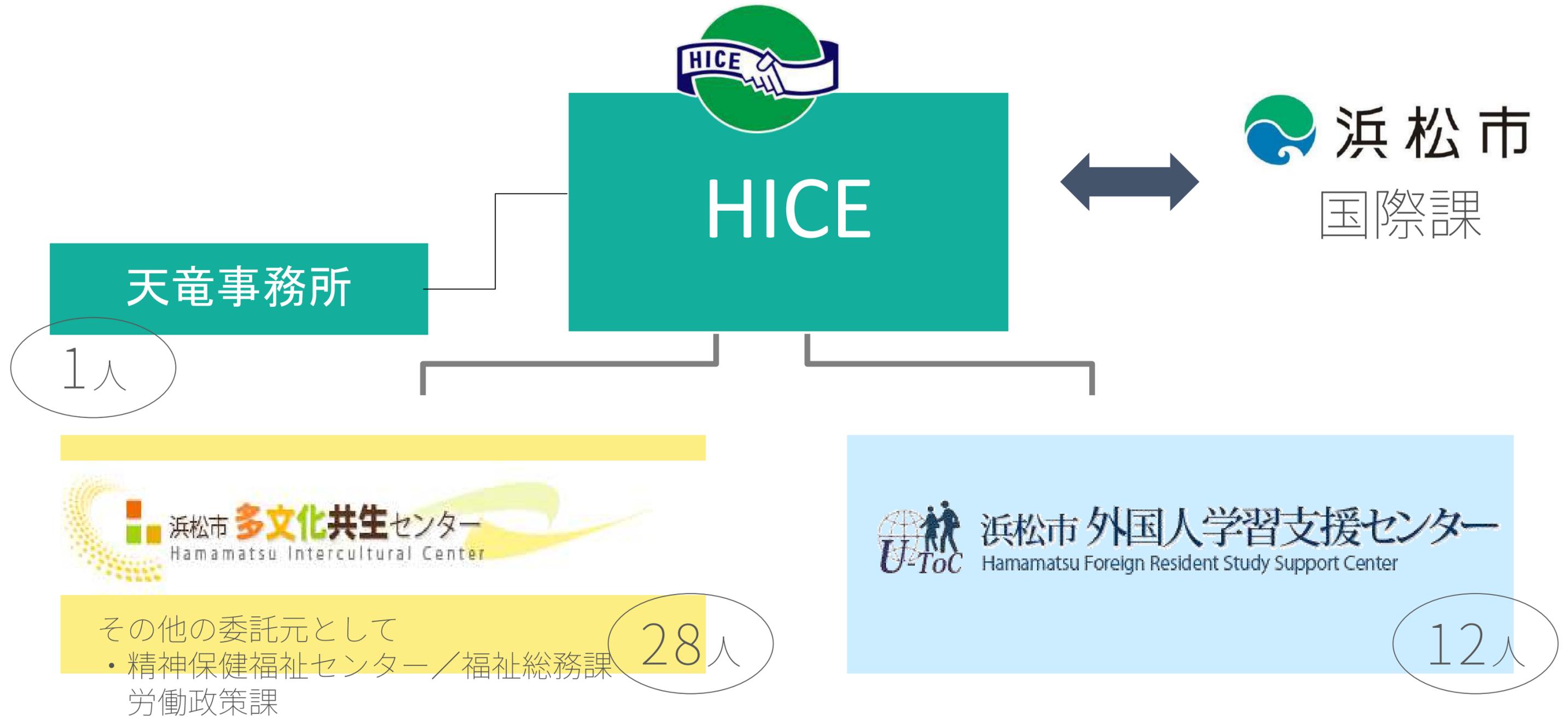
3



浜松市 外国人住民数移り変り (各年4月1日現在)



市との関係図



協会概要



ハイス (HICE)
と呼ばれています

組織名

公益財団法人浜松国際交流協会

設立年

1982年

※1991年財団法人化、2010年に公益財団法人化

予算

2億5953万円 (2025年度)

運営

浜松市多文化共生センター
浜松市外国人学習支援センター

職員数

41名 (2025年度)

HICE事業体系

多文化共生のまちづくり【在住外国人支援】

- 1 総合相談（人権の保障） **重点**
- 2 日本語学習支援（自立支援） **重点**
- 3 外国につながる次世代支援
- 4 多文化防災

基本施策

グローバル人材育成【国際交流・理解】

- 1 地域共生
- 2 多様性を生かしたまちづくり
- 3 グローバル人材の育成と活用
- 4 国際交流と国際理解の推進 **重点**

受入社会の
理解と変容が
求められる

市民活動支援

- 1 ボランティアバンクの運営
- 2 助成金の交付

情報収集・提供

- 1 機関紙 HICE NEWS
- 2 HP「HAMAPO」、Facebook、Instagram



多言語による相談

91年自主事業→92年委託事業→2020年ワンストップセンター事業

多言語 生活相談

- ・相談員を配置（全員、外国ルーツ当事者）
- ・窓口、電話、メール、SNSで対応
- ・その他の言語はオンライン遠隔通訳を活用

日本語	月～日	9:00～17:00
ポルトガル語	月～土	9:00～17:00
英語	月～金	13:30～16:30
フィリピン語	火・木・土	9:00～17:00
ベトナム語	火・木・土	13:00～17:00
スペイン語	土	13:00～17:00
中国語	土	13:00～17:00
インドネシア語	土	13:00～17:00

法律・税務相談

- ・弁護士相談（月2回、1回4人）
- ・行政書士相談（月1回、1回4人）
- ・社労士相談（月1回）
- ・年金相談（年2回）
- ・税務相談（年1回）
確定申告時50～60名

在留手続き相談

- ・在留支援相談：
入管職員による個別ケース相談（月1回）
2021年6月～
- ・入管相談（週1回）
※入管連携事業2009年～

複雑なケースについては、
ある程度の解決まで寄り添い支援も行います

外国人雇用サポート

- ・月～金
- ・国家資格キャリアコンサルタント3名
- ・雇用マッチング支援
- ・定着支援
- 労働政策課委託2020年～



メンタルヘルス

- ・相談（火～土）予約制
月40件、年439件
- ・同行通訳（火～金）
病院・専門機関から依頼
ポルトガル語→年386回
他言語は年157回

ブラジル人心理専門家2名
子どもの発達障害が多い

- 精神保健福祉センター委託2011年～

外国人コミュニティ連携事例 ソーシャルワーク研修



リーダー向け



●外国人リーダー向け（2008年～）

【テーマ例】日本の福祉制度、ソーシャルワーク、窓口で必要な法律知識、相談通訳研修 など

- ・浜松市は公的機関の窓口に通訳が配置されていることが多い（ポルトガル語）。個人事業主として通訳を行うブラジル人・ペルー人もいる。彼らはコミュニティでリーダー的な役割を担う。彼らを対象とした研修を行ってきた。
- ・ケース検討会を開催することにより、参加者間のネットワークの構築も目指した。
- ・行政用語のポルトガル語訳を統一するプロジェクトも行った。

⇒コミュニティの強化につながった

●支援機関との連携

【連携機関例】市各課、社会福祉協議会、生活困窮者支援団体、障害者支援団体、高齢者支援団体、消費生活センター など

外国人コミュニティ連携事例

外国人コミュニティ・ライフステージ講座

外国人コミュニティ（一般層）を対象に、日本で生活していく力をつけるためのセミナーをコミュニティのニーズに合わせてテーマを設定し、各国語で開催

ブラジル人対象

「老後に備える」など



ペルー人対象

「美と健康のEXPO」など



フィリピン人対象

「日本で必要な生活資金づくり」など



ポイント

外国人コミュニティと協働で行う、場所・日時も各国レストランなどアウトリーチ型

外国人のセーフティネットに注目したときの課題

課題 1

公的な扶助を使えない人への金銭的支援をどうするか。オーバーステイや仮放免の人は生活保護等を使えないが、人権的に必要なケースがある。こういうときは「共助」の出番。コミュニティや体力のある国際交流協会やNPOの出番。

課題 2

「公助」と「共助」の役割分担が重要。外国人コミュニティという「共助」に何もかもを求めない。外国人コミュニティから漏れる人もいる。最後のセーフティネットはケースによって変わる。人数多いと「公助」が重要。

課題 3

公的機関で外国ルーツの専門家(ソーシャルワーカー、コーディネーター)を雇用。コミュニティのことをわかりながらも中立的に動けるポストに人件費をつける。通訳ではなく、関係機関と対等に交渉できるポストが必要。